

Multicolor paint **Gelart**

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

内装仕上げの制限なし

高耐候性1液水性アクリルシリコン樹脂系多彩ジェル塗材

# 水性ジェルアートSi

## 標準施工要領書



スズカファイコ株式会社

## 特長

### ●高意匠性

多彩ジェルが織りなす奥行きのある石調スタイルと落ち着きのある3分つやの仕上がりは、住まいに高級感あふれる新たな意匠を演出します。

### ●高耐久性

防水性に優れ、建物を強固に保護すると同時に、変色・チョーキングが起きにくい卓越した高耐久設計です。

### ●美観維持

防かび性・防藻性に優れ、汚れを防いで美しい外観を長時間維持します。

### ●施工が容易

吹付けまたはパターンローラーにより、容易に施工できます。また、塗りむらが生じにくく、タッチアップ跡も目立ちません。

### ●高い安全性

環境に優しい水性1液塗料で、低VOC設計です。

## 用途

一般外壁新設・塗替、外壁サイディング材塗替、内装仕上げなど

## 適用下地

コンクリート・モルタル・PCパネル・ALCパネル・スレート・窯業系サイディングボードなど

## 適用既存塗膜

リシン・吹付タイル・単層弾性・EPの活膜

注) 既存塗膜が2液の溶剤形ふっ素樹脂塗料、シリコン樹脂塗料の場合は塗装できません。

## 荷姿

下塗り	水性ジェルアート下塗	14kg/缶
中塗り	水性ジェルアート中塗	20kg/缶
上塗り	水性ジェルアートS i	16kg/缶

## 水性ジェルアートS i 施工での下地調整 (要領)

### 新設

#### コンクリート・モルタルの場合

##### サンダー掛け

突起物、大きな目違いを電動サンダー掛けで除去する。

##### 表面の清掃

粉状物などの付着物をダスター刷毛、エアブローなどで除去する。

##### 金属部のさび止め

露出した鉄筋、番線などの金属部にエポブラを塗装する。

##### 下地調整

不陸、ジャンカ跡、ひび割れ、大きな巣穴、欠損などは、ラフトンフィラーなどで補修し、平滑にする。

#### PCパネルの場合

##### 下地調整

大きな巣穴は、ラフトンフィラーなどで充填し、平滑にする。尚、離型剤が付着している場合は必ずシンナーで除去する。

##### 表面の清掃

粉状物などの付着物をダスター刷毛、エアブローなどで除去する。

#### ALCパネルの場合

##### 下地調整

ひび割れ、大きな巣穴、欠損などは、ALC専用補修材などで補修し、平滑にする。パネルを貫通するひび割れや大きな欠損がある場合には、パネルを交換する場合もある。

##### 表面の清掃

粉状物などの付着物をダスター刷毛、エアブローなどで除去する。

##### 下地調整材塗り

ラフトンフィラーまたはスズカブラサフでALCパネル全面を下地調整する。

#### スレートの場合

##### 表面の清掃

粉状物などの付着物をダスター刷毛、エアブローなどで除去する。

##### ビス頭のさび止め

ビス頭にエポブラを塗装する。

#### 窯業系サイディングボード (無塗装品) の場合

##### 表面の清掃

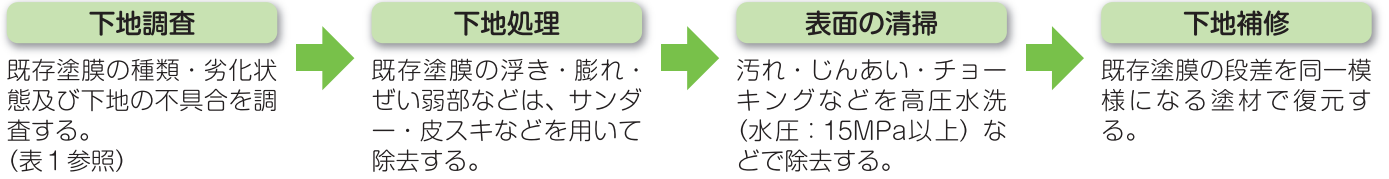
粉状物などの付着物をダスター刷毛、エアブローなどで除去する。

##### ビス頭のさび止め

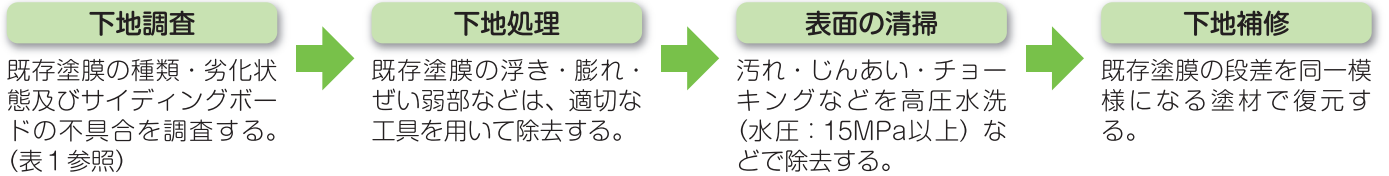
ビス頭にエポブラを塗装する。

# 塗替

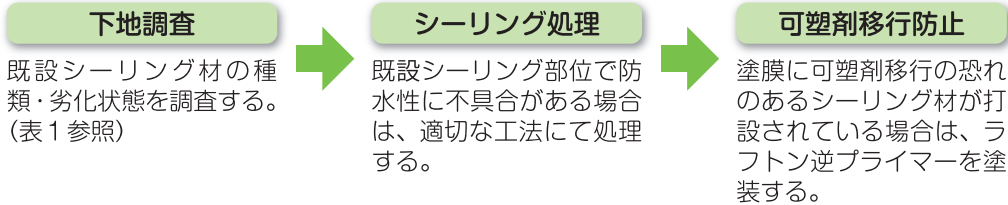
## コンクリート・モルタル・PCパネル・ALCパネル・スレートの場合



## 窯業系サイディングボードの場合



## 既設シーリング部位



【表1 調査項目と方法 (例)】

調査項目		調査内容	調査方法	
既存塗膜	塗膜の種類	塗膜の種類・テクスチャー 塗膜の柔軟性	設計図書(仕様書)閲覧 目視及び指触など	
	付着物	エフロレッセンス(白華)	有無、程度、範囲	目視及び指触など
		汚れ、藻、かびなど	有無、程度、範囲	目視及び指触など
	表面状態	チョーキング(白亜化)	有無、程度、範囲	指触又はセロハンテープにて白亜化を判定
		ひび割れ	有無、幅・長さ、範囲	目視、クラックスケール判定
		浮き・膨れ・はがれ	有無、程度、範囲	目視及び指触(打診)など
既設シーリング材	シーリング材の種類	シーリング材の種類	設計図書(仕様書)閲覧 目視及び指触など	
	状態	表面のひび割れ	有無、程度、範囲	目視
		汚れ・粘着性	有無、程度、範囲	目視及び指触など
		被着物との破断	有無、程度、範囲	目視

## ローラー工法

工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法	
1	下地調整	新設時	・下地の突起物、大きな目違いは電動サンダーなどで平らにする。 ・下地表面の汚れ、付着物などは十分に清掃する。 (ブラシ・エアブロー・高圧水洗など) ・下地の不陸、ジャンカ跡、ひび割れ、大きな巣穴、欠損などは、ラフトンフィラーなどで補修する。 ・下地は、十分に乾燥させる。(含水率10%以下、pH10以下)				
		改修時	・既存塗膜の浮き、ふくれ、ぜい弱部などはサンダー・皮スキなどを用いて除去する。 ・下地の汚れ、じんあいおよび、チョーキングなどの劣化塗膜を高圧水洗(水圧:15MPa以上)で除去する。 ・既存塗膜の段差を同一模様になる塗材で復元する。 ・下地は、十分に乾燥させる。				
2	下塗り	水性ジェルアート下塗 清水	100 0~5	改定 0.07~0.11	1	3以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	中塗り	水性ジェルアート中塗 <sup>(注1)</sup> 清水	100 5~15	0.2~0.3	1	3以上	はけ塗り ウールローラー塗り 吹付け <sup>(注3)</sup>
4	上塗り	水性ジェルアートSi <sup>(注2)</sup> 清水	100 0~5	1.0~1.2	2	(工程内) 4以上	パターンローラー塗り <sup>(注3)</sup>

(注1) 水性ジェルアート中塗は水性ジェルアートSiと同じカラーNo.のものをご使用ください。

(注2) 水性ジェルアートSiは、開缶時に液層分離していることがあります。品質には問題がありません。ご使用前にかくはん棒や柄杓で軽くかくはんし均一にしてください。

ハンドミキサーで強くかくはんすると、着色ジェル粒子が潰れ、所定の柄で仕上がらないため、ご注意ください。

(注3) 水性ジェルアート中塗の吹付けは、万能ガンを用いて下記の条件にて行ってください。

[希釈率: 10~15% 口径: 3.0mm (リシン用) 吹付圧: 0.3~0.4MPa]

(注4) 指定のローラーでくばり塗りを行い、次いで上下左右方向にならし塗りをした後、必要に応じて斜め方向に細かくむら切りを行ってください。ローラーの運行が速いとね返りが多くなるため、ローラーは柄を揃えながらゆっくりと運行してください。

柄を揃えるために過剰にならし塗りを行うと、着色ジェル粒子が潰れてしまうため、塗装はできるかぎり手早く行ってください。

## 施工要領

### 工程2 下塗り

- 水性ジェルアート下塗は十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラーを用いて、むらなく均一に施工してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 塗替えにおいて、リシンや吹付タイルなどの既存塗膜の場合、下塗りにリメイクブラの使用も可能です。

### 工程3 中塗り

- 水性ジェルアートSiと同じカラーNo.の水性ジェルアート中塗をハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を5~15%で加え、粘度調整をしてください。
- 中塗りをむらなく均一に施工してください。
- 中塗りは、所定の所要量で下地を完全に隠ぺいするように施工してください。中塗りが隠ぺい不足ですと、水性ジェルアートSiの仕上がり不良(色ムラ)の原因となります。

### 工程4 上塗り

- 水性ジェルアートSiは清水を5%以内で加え、かくはん棒や柄杓で軽く混ぜて均一にしてください。かくはんハンドミキサーを使用しますと、着色ジェル粒子が潰れてしまうため、行わないでください。
- 水性ジェルアートSiの施工は、パターンローラーをご使用ください。パターンローラー細目は使用しないでください。
- 水性ジェルアートSiをパターンローラーへ含ませる際に、ローラーネットなどで何回もしごく着色ジェル粒子が潰れる恐れがあります。
- 上塗りは、事前に必ず試し塗りを行い、仕上りを確認してから、施工方法及び施工条件を一定にして本施工を行ってください。



パターンローラー

## 吹付工法

工程		塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	下地調整	新設時	<ul style="list-style-type: none"> <li>下地の突起物、大きな目違いは電動サンダーなどで平らにする。</li> <li>下地表面の汚れ、付着物などは十分に清掃する。(ブラシ・エアブロー・高圧水洗など)</li> <li>下地の不陸、ジャンカ跡、ひび割れ、大きな巣穴、欠損などは、ラフトンフィラーなどで補修する。</li> <li>下地は、十分に乾燥させる。(含水率10%以下、pH10以下)</li> </ul>				
		改修時	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存塗膜の浮き、ふくれ、ぜい弱部などはサンダー・皮スキなどを用いて除去する。</li> <li>下地の汚れ、じんあいおよび、チョーキングなどの劣化塗膜を高圧水洗(水圧:15MPa以上)で除去する。</li> <li>既存塗膜の段差を同一模様になる塗材で復元する。</li> <li>下地は、十分に乾燥させる。</li> </ul>				
2	下塗り	水性ジェルアート下塗 清水	100 0~5	<b>改定</b> 0.07~0.11	1	3以上	エアレス塗り
3	中塗り	水性ジェルアート中塗 <sup>(注1)</sup> 清水	100 5~15	0.2~0.3	1	3以上	はけ塗り ウールローラー塗り 吹付け <sup>(注3)</sup>
4	上塗り	水性ジェルアートSi <sup>(注2)</sup> 清水	100 10~15	0.6~0.8	1~2	(工程内) 追いかけ	万能ガン <sup>(注4)</sup> 口径5.5mm(リシン用) 吹付圧0.2~0.3MPa

(注1) 水性ジェルアート中塗は水性ジェルアートSiと同じカラーNo.のものをご使用ください。

(注2) 水性ジェルアートSiは、開缶時に液層分離していることがあります。品質には問題がありません。ご使用前にかくはん棒や柄杓で軽くかくはんし均一にしてください。

ハンドミキサーで強くかくはんすると、着色ジェル粒子が潰れ、所定の柄で仕上がらないため、ご注意ください。

(注3) 水性ジェルアート中塗の吹付けは、万能ガンを用いて下記の条件にて行ってください。

[希釈率:10~15% 口径:3.0mm(リシン用) 吹付圧:0.3~0.4MPa]

(注4) 吐出量は少なめにして塗付量を調整し、トランスフォーマーを用いて所定の吹付圧を一定にし、吹付距離(30~50cm)で運行速度を一定にし、むらなく均一に吹付してください。圧力が高すぎると、着色ジェル粒子が潰れ、所定の柄で仕上がらないため、ご注意ください。

## 施工要領

### 工程2 下塗り

- 水性ジェルアート下塗は十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラーを用いて、むらなく均一に施工してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 塗替えにおいて、リシンや吹付タイルなどの既存塗膜の場合、下塗りにリメイクブラの使用も可能です。

### 工程3 中塗り

- 水性ジェルアートSiと同じカラーNo.の水性ジェルアート中塗をハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を5~15%で加え、粘度調整をしてください。
- 中塗りをむらなく均一に施工してください。
- 中塗りは、所定の所要量で下地を完全に隠ぺいするように施工してください。中塗りが隠ぺい不足ですと、水性ジェルアートSiの仕上がり不良(色ムラ)の原因となります。

### 工程4 上塗り

- 水性ジェルアートSiは清水を5%以内で加え、かくはん棒や柄杓で軽く混ぜて均一にしてください。かくはんハンドミキサーを使用しますと、着色ジェル粒子が潰れてしまうため、行わないでください。
- 水性ジェルアートSiの施工は、万能ガンをご使用ください。  
[推奨ガン] 万能ガンAGA(株明治機械製作所)
- 上塗りは、事前に必ず試し塗りをを行い、仕上がりを確認してから、施工方法及び施工条件を一定にして本施工を行ってください。



万能ガン

## 水性ジェルアートSiの注意事項

- 多彩模様塗料ですので、ロット差による多少の色相のずれはあらかじめご了承ください。また、異なるロットの塗材を併用する場合は、同一面での使用を避けるか、塗回数ごとに使い分けてください。
- ローラー工法と吹付工法では、仕上がりが若干異なるため、必要に応じて実物の塗見本で仕上がりをご確認ください。
- 塗継ぎは、必ず目地部で行ってください。  
目地のない大壁の塗装では、化粧目地を作り、石材パネル感を演出すると同時に、塗継ぎにも利用してください。
- 化粧目地は、躯体目地を生かすことを基本とし、目地幅は1~3cm、1.5m以内の間隔で目地を設定してください。
- 上塗りは、同一ロットの塗料でも、塗装方法の違いにより仕上がりが外観が変わりますので、事前に必ず試し塗りを行い、仕上がりを確認してから、施工方法及び施工条件を一定にして本施工を行ってください。
- 上塗り後は、乾燥する前に養生材（養生テープ、マスキング、目地棒など）を取り外してください。乾燥した後に、養生材を取り外す場合にはカッターで切り込みを入れてから、塗膜が剥がれないように取り外してください。

## 施工上の注意事項

- 降雨・降雪が予想される時、強風の時などは施工を避けてください。
- 気温5℃以下、湿度85%以上または結露が懸念される場合は、施工を避けてください。
- 施工後に結露を生じますと、塗膜がタレたり、シミになりますので冬期や雨天の施工には、十分ご注意ください。
- 施工面が高温（50℃以上）の場合は施工を避けてください。
- 下地は、十分に乾燥させてください。（含水率10%以下、pH10以下）
- 他の塗材との混合は避けてください。
- 各工程の間隔時間は、所定の時間を厳守してください。
- 所要量は標準的な数値です。下地の形状や状態、施工方法、環境などによって増減することがあります。所要量が少ないと仕上がりが不良や十分な塗膜性能が得られませんので、所定の所要量で施工してください。
- エアレス塗装や吹付けを行う場合は、周辺への飛散防止に十分注意し、養生などを行ってください。
- 次のような下地の場合、付着不良を生じることがありますので、施工を避けてください。
  - ・清掃が不十分で汚れが付着している下地や強度の低い下地
  - ・表面にふっ素樹脂コーティングや特殊コーティングが施された窯業系サイディング
- ドアパッキン、ゴム、プラスチックなどの可塑剤を含むものに本品塗膜が接触すると、粘着の発生や、はく離を起こす場合がありますので、接触が予想される箇所は施工を避けてください。
- シーリング面に施工する場合は、予めラフトン逆プライマーを施工してください。  
（ポリサルファイド系シーリングの場合は、2回塗りしてください）  
尚、シリコン系及びブチル系シーリングの場合は、施工を避けてください。
- 建物の構造、施工部位によっては、汚染する場合がありますのでご注意ください。
- 適用下地、適用部位及び適用既存塗膜以外への施工は塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用する前に最寄りの営業所へお問い合わせください。

## 取扱い、安全衛生上の注意事項

- 換気の良い場所で使用してください。
- 居住者・隣家・車両などへの塗料ミスト、臭いなどが飛散しないような施工方法を選ぶとともに、十分な養生をしてください。
- 臭いは食品・飲料器・衣類などに、うつる場合がありますので、施工場所から遠ざける、または養生するなど、十分注意してください。
- 粉じん・塗料ミストを吸入しないでください。
- 環境への放出を避けてください。
- この製品を使用するときに、飲食をしないでください。
- 取扱い後は、手洗い・うがい・鼻孔洗浄を十分に行ってください。
- 保護手袋・保護眼鏡・保護面・保護衣・呼吸用保護具を着用してください。
- 吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けてください。
- 飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡してください。口をすすいでください。無理に吐かせないでください。
- 目に入った場合は、水で数分間注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してください。その後も洗浄を続けてください。目の刺激が続く場合は、医師の診断／手当を受けてください。
- 皮膚（または髪）に付着した場合は、直ちに汚染された衣類をすべて脱いで取り除いてください。皮膚を流水・シャワー・石鹸で洗ってください。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当を受けてください。
- 漏出した場合は、すべり、流出の危険があるので直ちに布やウエスで拭き取ってください。
- 塗材は低温または高温で変質するため、必ず5~30℃の暗所で子供の手の届かない一定の場所を定めて保管し、開缶した状態で長時間放置しないでください。特に下記の場所での保管は避けてください。
  - ・雨水や直射日光の当たる場所・高温多湿の場所・潮風の当たる場所・凍結の恐れのある場所など
- 内容物や容器などは、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託してください。  
（排水溝、地面、河川などに流さないでください）
- 容器を転倒させる、落下させる、衝撃を加えるまたは引きずるなど、粗暴な行為をしないでください。
- 手環やバンドを用いて、高所への吊り上げ作業などは行わないでください。
- 容器を手で持つ場合は、垂直に持ち上げて取り扱ってください。
- ご使用前には製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。またSDS（安全データシート）もご参照ください。  
ご使用の際には、安全管理に注意して作業を行ってください。



営業本部 〒510-0101 三重県四日市市楠町小倉1058-4  
研究開発本部 〒510-0851 三重県四日市市塩浜町1

☎059-397-2187 FAX059-397-6191  
☎059-346-1116 FAX059-346-4585